

一般社団法人能水会

第 13 号

2014年9月発行

ご 挨拶

一般社団法人能水会
会長 岩崎 昇 (新16製)

会員の皆様におかれましては、益々ご清栄の事と、お慶びを申し上げます。日頃より本会の活動に、ご理解とご協力を賜わり厚く御礼を申し上げます。

会員の皆様よりご支援を頂き推進して参りました「産業教育支援制度」も

2年目を迎え母校で厳選な奨学選考を行い3名の奨学育英対象者と1名の会長賞の推薦を頂きました。皆それぞれに経済的には、困難な環境に有りながらも、将来を夢見て進学を決意し高い目標を持った優秀な生徒と、成績優秀で相撲道に精進し、全校生徒の模範である相撲部の生徒1名に奨学育英基金を贈りました。皆様から、お預かり致しております貴重な浄財は、本来の事業目標に遵守し実施され、母校からも、大変有効な事業として喜んで頂いていております。会員の皆様にも、ご賛同頂けると確信を致しております。これからも奨学育英基金が在校生の希望と励みになり一人でも多くの優秀な資質を持った生徒諸君が安心して学べる様な産業教育支援事業を目指して母校に尽くして参ります。

母校では、「オンリーワンステップアップ事業」として高質且つ安全性の高い実習製品の製造：販売に取り組み全国の高校では、はじめての「国際衛生管理システム」HACCP（ハサップ）の認定をうけました。今後この商品開発や製造管理ノウハウを地域振興に生かしながら産業界：学校：行政のコラボレーションによる「アントプレーナー教育支援事業」が「一般社団法人能水会」の公益事業として実習工場の事業主体となり取組みで行く事で「平成26年度理事会並びに一般社団法人能水会定時社員総会」で、ご承認を頂きました。全国には、類の無いモデルケースとして、特徴ある学校づくりを目指す母校に尽くす稀有な好機と捉え会員の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

本会は、男子寄宿舎「鷗雛寮」の管理運営と「産業教育支援制度」の推進に取り組んで参りましたが、新支援事業「アントプレーナー教育支援事業」が承認された事により3本の支援事業で具体的な支援事業として母校への支援に本会が一体となって取り組んで参ります。今後、



更に充実した内容で意義ある制度として定着させて行きたいと考えております。

本会の抱える最大の課題は、当会の運営原資である皆様からの年間千円の年会費の納入が不足している状態です。母校と会員の皆様との情報の架け橋として提供しております会報誌「日本海」の発刊の諸経費も年会費に集約包含されております。母校が未来永劫に発展し輝き続ける為に皆様からの千円の年会費が本会運営の大きな糧となっております。是非、現状をご理解頂き、ご協力を、お願い致します次第で御座います。

能水会の支部活動の停滞：未活性は、会費収入の減少に繋がり運営目標に大きく乖離を生じる事となります。支部活動の活性を急がなければなりません。高齢化の影響で全国支部の帰属会員の減少と卒業生の就職：進学を選択ニーズの変化により地元に住定される会員が全体会員数の70%を占有しております。平成6年に海洋高校第1期生が卒業され20年を迎えました。全国で展開している支部活動の活性化と同時に地元8支部は、それぞれの結集を図りながら地元広域連合の代表幹事の元「地元で広域連合」を組織し地元8支部連携による一体感の醸成をはかり「地元広域連合総会」で若い会員にも参加を頂き全国支部の皆様にも、ご協力を頂き、最優先で地元支部の活性を熱願したいと思っています。

会員の皆様には、益々のご健勝を、心よりご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

新任のご挨拶

新潟県立海洋高等学校長 久保田 郁夫

この4月に着任いたし、21代目の校長を仰せつかりました久保田郁夫でございます。能水会員の皆様には、日頃のご支援に感謝申し上げますとともに学校の近況等を報告させていただきます。



まずは、本校に勤めることの使命と立場でありますが、県内唯一の水産科を有する学校であり、116年の伝統と歴史を踏まえ実習船海洋丸を軸とした生徒の育成が第一義と考えます。学校の再編計画もありますが、上に伸ばしていく姿をイメージして教育課程の編成と組織づくりが重要であると考えます。

会報「日本海」をみますと諸先輩の熱き思いがひしひしと伝わってきます。

創立100周年の記念誌で、川崎俊平氏が校訓である「質実剛健」をもとに新しい道を開いていく人材育成を望まれております。さらに、「進取力行」、「水産報告」を加えた3本柱の校訓をもとにし、本校の「水といかり」の校章を胸につけ、教育目標の達成に向けて原点に立ち返ることが私の使命であると考え、次の3点を、その実現に向けて発信していきます。

(1) 海洋立国への社会貢献

水産海洋に関するすべての学問領域の授業と実習に、実習船と施設や人材を最大限に活かし、今後の幅広い海洋関連産業を担う産業人の育成に貢献する。

(2) キャリア教育の推進

県内唯一の水産科の特色を活かしたキャリア教育により職業観や勤労観の涵養を図り、地元とのパートナーシップを深め、産官学連携事業を通じた「インターンシップ」及び「デュアルシステム」をさらに充実、拡大させる。

(3) グローバル人材の育成

社会の要請に応える人材の育成のため、実践と実学を重視した教育活動により「確かな学力」を身につけ、資格取得等での資質向上を図るとともに、多様性への感性と普遍性への探求心を持ち協働力や活用力を高める。

標榜する教育目標の達成のため、最優先される海洋丸の代船に向けて、能水会の皆様をはじめ、多くの方々からご尽力をいただいております。引き続き実現に向けお力をお貸し願います。また、長期的な戦略として糸魚川市の産官学連携事業において、本校の開発力を活かし、地域の活性化への波及効果を期待された計画が提案されております。本校の専門性と研究開発が世界に発信できるチャンスと考えます。事業の展望を後方支援していただくこともお願いするところであります。

今年度の体験入学には、県内外より過去最高の146人の中学生が参加しました。定員割れしていたことによる学科再編は、「能水魂（伊津野魂）」を呼び起こし、どの学校よりも強い意志で、新しい扉を開けるという使命を目覚めさせてくれました。

試されるのは、「今を生きる」我々です。これから3年間の数値に表れる成果が、学校の認知度に直結します。「千古不動の威を示す」が如く千年万年不動の逞しさと品格を示し、たえることなく前に進む「不断前進」により「新しい扉を開けた海洋高校」と歴史に名を刻むことになると確信しております。

軍師として「水といかり」の軍配をいただいたと、自分の立場を理解し海洋高校の発展に全力をつくす覚悟がありますので、引き続きご支援・ご指導をお願いいたします。

平成26年度一般社団法人能水会 定時総会報告

事務局長 渡辺 宏幸（新30漁）

平成26年6月14日（土）（創立記念日に近い土曜日）社員総数127名中19名の出席、委任68名において平成26年度定時社員総会が行われました。



岩崎昇会長の挨拶では、産業教育支援制度は着実にその効果をもたらした生徒募集あるいは生徒への励ましになっていること。母校が推し進めている教育界初のモデルケース「アントレプレナー教育」に関し同窓会も支援して行くこと。また、寄宿舎管理運営についても遠隔地や県外からの生徒が増加するなか、寄宿舎改修工事が行われていること。重要課題の海洋丸代船問題も大詰めを迎えていることなどを話され、更に地元支部活性化を強く切望されました。

久保田邦夫新校長の挨拶では、「質実剛健」をもとに新しい道を切り拓いていく人材育成、更に「進取力行」「水産報國」を加えた三本柱の校訓をもとに、本校の「水と錨」の校章を胸につけ、教育目標の達成に向け原点に立ち返ることが私の使命と考えていると話され、更に軍師として「水と錨」の軍配を頂いたと自分の立場を理解し、海洋高校発展に全力を尽くす覚悟と話されました。



資格確認が行われた後、旧職員4名を含む18名のお亡くなりになられた方々に黙祷を捧げました。

議長には新制25回製造の能生支部小林忠様、議事録署名人には新制11回製造富田達治様、同じく新制11回製造岡崎辰三様をお願いを致しました。

○議案第1号 社員の選任について

2年の任期に伴い、各支部において127名の社員を選任して頂きました。

○議案第2号 支部の設置並びに支部長の選任について

佐渡新支部長に新制9回製造高野和美様が選任、糸魚川新支部長に新制17回製造歌川秀成様が選任、そして、千葉支部が再発足し新支部長に新制16回製造寺崎安雄様が選任されました。

○第3号議案 平成25年度事業報告並びに決算について

※詳細については「新潟県立海洋高等学校」ホームページ「同窓会」総会報告をご覧ください。

○第4号議案 一般社団法人能水会理事の選任について

2年の任期に伴い新理事の選任が行われました。会長・副会長ともに再任され、3名の理事の交代があり青海支部新制16回製造滝川幸男様、糸魚川支部新制17回製造歌川秀成様、上越支部新制18回製造伊藤春男様が選任され他の支部の方は再任されました。

○第5号議案 アントレプレナー教育支援事業開始とそれに伴う基本金の取り崩し及び公益目的支出計画変更について

1月上旬学校よりアントレプレナー教育（起業家）の支援について要請がありました。具体的には、現在学校の海洋生物資源研究部が製造販売している魚醤の工場を糸魚川市の支援により校外に建設する計画がありその工場の経営の運用母体を同窓会にお願いしたいと話がありました。運営資金150万円を基本金より取り崩しこの支援事業に充てる。また、現在本会は一般法人への移行中のため、公益目的支出計画変更を行わなければならないと話がありました。

基本金の取り崩しを承認して頂き、アントレプレナー教育支援事業について今後色々と折衝や変更手続きがあるが、今後の進め方については理事に一任して頂きたいと議長からまとめて頂き承認されました。

○報告事項 平成26年度事業計画及び予算について報告がありました。

○その他

決算及び予算の中でも話をしましたが、本会の収入である年会費の収入が減少してきている中、各支部への総会祝儀、会議費の削減を行うと話がありました



9時より開始し予定の12時には全てを終了することが

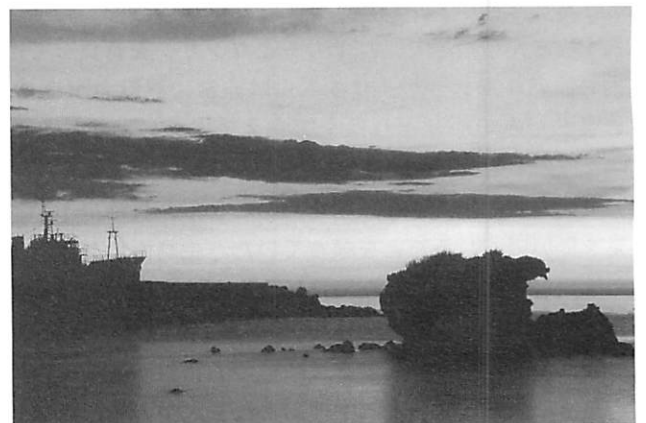
出来ました。その後、能生駅前汐路に於いて懇親会を持ちました。



今回お忙しい中、県議会議員新制7回製造小川和雄様もご出席され、折に触れ母校への支援などを行っている様子をお話しされ会を盛り上げて頂きました。また、新しく選任されました理事、支部長、関西支部より遠路お越し頂いた新制8回増殖細内喜太郎様などよりご挨拶を頂き、懐かしい青春時代の話や母校の活躍の話などで盛り上がりました。

来年度社員定時総会は平成27年6月13日土曜日に行う予定です。社員(代議員)の方はご予定下さい。

この総会の詳しい内容や資料等については、新潟県立海洋高等学校で検索して頂き、学校ホームページの右上にある「同窓会」を開いて頂き総会報告をご覧ください。



とっこ岩夕景と3代目越山丸

先人の歩み シリーズ④

至誠の旗を掲げ歩み続けた

第16回 製造科 青山 真治

はじめに

井陵台に立つ我が母校、116年の歳月を経て更なる挑戦が始まっている。

職員が生徒が一丸となって、全国の水産・海洋系の学校のリーダーたらんと活躍する姿は、まさに「能水魂」"伊津野精神"が失われていない証しであろう。

一万有余の卒業生は常に母校を誇りに思い、母校の名誉のために粉骨砕身働き、大きな社会貢献も果たしている。

我々の追い求めるのは、社会貢献もあろうが先ず自らの幸せであろう。しかし人間としてやりきったと言える人は果たしていくばかりであろうか。その中で、青山真治さんほど馬鹿正直に初心を忘れずに至誠の旗を掲げつつ、後輩達にその生き様を見せ続けた人はいないであろう。先人の歩みシリーズ④は昭和の激動の時代に行商から身を起し、一代で「青山」を作り上げた青山真治さんの波瀾万丈の人生を辿ってみたい。



昭和61年 傘寿の祝い

1 直江津から能生水産学校へ

明治39年12月17日、直江津市中央4丁目において海産物商（行商）を営む八十治（やそじ）サキ夫婦の4人姉弟の長男として生まれる。当時の家は海岸沿いにあり、蔵もある家でかなり裕福な生活を送っていた。

サキさんは婿取りで非常に厳しい人であったが、八十治さんとは仲が良かった。サキさんは魚の行商、経理は八十治さんの担当で、リヤカーとガンガンを背負って市内の振売りであった。サキさんは非常に記憶力が良く、お客さんとのやりとりは全て覚えており、真治少年も時々母の手伝いで行商に歩いた。

夫婦の夢は、大きな魚屋を営むことで、真治少年が家業を継いでくれることを願っていた。生真面目な真治少年は両親の夢を叶えるために能生にある水産学校の製造科に入学したのは大正10年4月のことであった。

級友には後程母校能生水産高校の名物教頭となる吉川藤次郎氏や東大へ進み法学博士として大学の教授となった関之氏等がいたが彼らと共に将来の夢を語り、両親の期待に応えるべき勉学に励んだ。

大正13年3月に卒業した真治は直ぐには家業には就かず北海道に渡ることになった。当時北海道は開拓のまっ最中、真治少年も大きな夢を抱き、北の大地で能生水で学んだことを生かし、当時日本の漁業冷凍販売では一番の大会社であった缶詰加工会社「くずはら製罐」に就職した。

2 魚の行商

北海道から戻った真治は暫く家業を手伝った後、昭和5年いよいよ鮮魚商として高田駅前に独立開業することになる。この時真治の年齢は25歳であったが、まだまだ商売の中心は母親のサキさんであった。

昭和6年真治26歳の時、黒川村の村長で呉服商を営んでいた「小山みす」さんと結婚する。みすさんは12人姉弟の3番目で非常に働き者であったが性格もきつかった。真治は性格のきつい母と自分の妻では合わないと思い、高田駅前の店を自分の妹「キミ」に譲り、現在の高田家庭裁判所の向かいで鮮魚商を営むことになったが、真治夫妻の飲食を忘れての頑張りが青山商店へと続くことになる。

真治夫妻は4人の子供（男2、女2）をもうけたが、長女的美恵さん（柿崎在住）曰くに、父と母の寝た姿を見たことがない、いったい何時寝ていたんだらう。

しかも、父と母が喧嘩をしたところは見たこともなかったが、父にとっての母は絶対であった。母親のみすさんは男の子には甘かったが、娘達には厳しかった。



昭和9年真治30歳（長女美恵1歳6ヶ月）

（人様にやらねばならないからと言っていた）しかし、真治さんは甘かったというより子煩悩であった。夫婦二人三脚の青山商店は働き者で律儀な真治としっかり者の妻により軌道に乗ったかにみえたが、戦争の激化、真治も徴用で群馬県足利の軍事工場へ行くことになり、店は妻に任せられた。

徴用3年で終戦になり、高田に戻ることが出来たが、それからは大変、リヤカーでの行商は高田市内の他、赤倉温泉まで足を伸ばしての行商であった。妙高田口の駅まで列車で、それからリヤカーを引き温泉街まで登った。

冬には駅からソリで、たとえ大雪の時であっても、約

束通り魚を届けた。その努力が赤倉の旅館の人達に認められ、ますます信用を掴むことになった。お客さんが多くなり二人の仕事量は益々増加し、帳面付けが大変になったが、レジが導入されるようになった時の父と母の喜びは格別のものであったと、長女の美恵さんが当時のことを語ってくれた。何しろ当時は盆暮れ勘定が普通の時代であった。

3 青山商店から

(株)青山フードセンターへ

終戦の困難からようやく復興の兆しが見え始め、社会が大きく変わろうとしていた。青山商店も軌道に乗りだし、発展していったが彼には時代を見る目が備わっていた。それは行商を通して知り得た知識と先を見通す臍覚にほかならない。困難期に赤倉温泉までの行商で掴んだものは、青山商店の信用だけではなく、彼の律儀さに惚れた人との交流にあった。それも、憲政の神と仰がれた尾崎学堂、フランス文学の大御所堀口大学、上越を代表する写真家浜谷浩などの著名人で、特に尾崎学堂とは長い親交を重ねることになる。



昭和22年（43歳）能生水の帽子

これら著名人との交流の中、変わりゆく日本の姿がいち早く見えたのではないだろうか。

尾崎翁が85歳の時、「青山真治君の厚ぎを謝するとて」と題して、「幾千年むつみし友のそむく世に、まだ見ぬ君のなさけゆかしき」という短詩が贈られている。

昭和25年、青山さんは46歳になっていた。もう、高田地区を代表する鮮魚商として活躍していた。高田鮮魚商組合設立に尽力し、理事長にも就任した。

昭和28年、株式会社「青山」の母体となる青山フードセンターを設立し、上越地域におけるスーパーの先駆者として活躍した。

昭和43年、64歳になった青山さんは上越青果商協同組合の設立と同時に理事長に就任、上越一の量販店（スーパー）を本町店、南本町店、直江津店、エルマール店、柿崎店、柏崎店、番神店、と展開していった。しかし、糸魚川・西頸城方面には決して展開しなかった。

4 魚屋の哲学（経営哲学）

(株)青山の会長になっても白衣を着て店頭に立ち、どんなお客様に対しても、腰は低く温かく接していた。

新しい時代になったといえども、口で言うより自分の姿を社員に見せることが大切であることを感じていたの

かも知れない。ある時、お客さんが魚の前に立ち動かなかったことがあった。その人は大切なお客さんが来て、どうしても魚が欲しかった、でも、夫の給料日前でお金がなかった。青山さんはその女性にお金を渡し、それで魚を買って行きなさいと言ったことがあった。（このことは妻の「みす」さんが知ったら怒ったと思うと長女の美恵さんが話していた）

又、経営方針は社員に徹底していた。それは何故か。青山の社員である誇りと、お客様に喜んで頂く店であり続けたいという願いであった。奥様の「みす」さんは幅が良く親分肌で社員に対する教育にも厳しいものがあった。早く一本立ちさせそれぞれの店を任せたいという願いがあったからである。

その中で、どんなに店が大きくなって家も魚屋だ。魚だけは何処の店にも負けてはいけないという「こだわり」があった。おそらく初心を忘れてはならないということであろう。

「青山」はどんどん大きくなった。しかし、決して糸魚川・能生には店を出さなかった。それは、自分が学んだ能生水産学校、恩義ある地域の業者をいじめてはならないという律儀さと経営哲学を最後まで貫いたからであった。



昭和22年 43歳

5 人生哲学を語る

人間の生き方を淡々と語る青山さんの言葉は何時も謙虚で慈愛に満ちたものであった。

- ・ 人間えらくなつたからといって、けして威張ってはいけない。人様のお陰で今日がある。（最後まで決して威張らない人であった。）
- ・ 人間は信頼関係が一番大切、友達を大切にせよ。若いといって馬鹿にしてはならない。（商売の鉄則は約束だ、人を裏切ったり、嘘をついてはいけない。）
- ・ 時代を見る目を養え。それには正しい交友関係を持つことだ。（青山さんは幅広い人脈があった。なぜ人が集ったのか、・・・人を決して裏切らないからである。頼まれれば身銭を切っても果たす人であった。）

6 上越支部の発展に貢献

支部を発展させるために、「たのもし講」を作った。これは青山さんと金子孝利さん（32回養殖科）の尽力に依るもので、毎月25日に集った。そこで生み出した財源から本部に送金したり、母校の生徒が上越の大会に来ると会員に指示し差入れをするなど支援した。

支部の若手達は青山さんや、金子さんから人生訓話を聞くのが楽しみであったと大島悌三さん（S6回漁業科）が当時の思い出を語ってくれた。



昭和51年 弥彦旅行 71歳

上越地域で青山さんに助けられた人も沢山いる。後輩の面倒見が良く、就職の世話も良くやってくれた。（おい、〇〇を拾ってくれないか・・・青山さんに頼まれば・・・ことわるすべもなかった。）

7 母校能水会第4代会長として活躍

全国どこでも組合活動が激化し、我が校としてその波に呑まれそうな時期があった。その時代に能水会第4代会長として、学校現場の正常化を図るべく教職員と話されていたことを思い出す。



又、同級生の吉川藤次郎教頭が死の直前まで、「母校発展

の為にそして卒業生のために、何がなんでも能水会館を建ててくれ」と叫び続けたその意思を継ぎ立派にその約束を果たされたのも青山会長がいたればこそのものであった。

8 上越の巨星堕ち後輩に残したものは

人間いつかは死ぬ。しかし告別式の参列者は様々である。決して多ければ素晴らしい人であったとは言い切れない。有名人の告別式には多くの人が集る。青山さんの葬儀も多くの人が集った。だが、青山さんの多さは有名

人の多さとは異にするところがある。

あの上越市厚生南会館に溢れんばかりの人たちは、皆、青山さんの人柄、誠実さにひかれ、その語りの中に人生の指針を与えられた人達ではないだろうか。

火葬場にて最後のお別れの時、誰となく母校の校歌が歌われ、それが大合唱となった。青山さん有難う・・・

その心が「校歌」として、そして生かされた者は青山さんの意思を継ぎ、能生水を出た誇りを胸に母校を思い、大きく飛躍する節目としたことであろう。

（平成元年、2月15日、御永眠、享年82歳）

9 青山さんの業績

誠実無類の人柄と仕事ぶりで、上越地区の水産物、青果物業界の指導的役割を果たした青山さんは、(株)青山取締役会長、(株)青山フードセンター取締役、(株)スーパー青山代表取締役、(株)サンコー食品代表取締役、(株)一印上越魚市場取締役の要職にあった。これらの会社の発展はそのまま青山さんの歴史でもあった。

10 飯田祥二さんのこと

飯田祥二さんは青山さんの長女(恵美)さんの次男「孫」である。現在糸魚川市にあるスーパーサンエー厚田店長をされている。この祥二さんは(株)青山グループの(株)サンコー食品(代表青山真治、副会長青山すみ、従業員20名)を手伝い心身共に、商売の有り様をたたき込まれたお一人であろう。その祥二さんが青山さんのエピソードを語った。

昭和60年代の小中学校の学園祭(10月下旬から11月上旬)のバザーでは、お寿司・焼きそばを販売するのが主流だったため、当時のサンコー食品にもお寿司の注文が殺到した。当時の従業員の能力、人員から4,000食が限度と判断したが、会長に報告すると当社の寿司を気に入って注文して下さるのだから、受けるだけ受けなさい、とのこと。私は会長でつかうでたなあ、と半信半疑な思いで注文を受け、なんと3倍の12,000食の注文が入ってしまった。・・・米でいうと約60俵、きっと現在ではこれだけの注文もないと思うが、・・・



会長傘寿の祝い 左は祥二さん

会長は飯田、「青山の社員は全部おれの子分だから出来ないことはないから心配せんで良いぞ」とのこと、顔色

一つ変えないで、逆に微笑みを浮かべながら返答したあの顔は忘れられない。底知れぬ男としての力量、人との信頼、また、親分としてやり通す気迫、そんな男を感じさせてくれる人物でした。

それから、約1年後には、癌という病気と付き合いながら、右下半身にマヒが来ても左足一本で自転車をこぎ会社に出勤してくる姿を今でも思い出します。

「オレもとうとうガタが来た」と寂しそうに笑いながらつぶやいた。「やっと普通のじいさんになっただけだよと話したら」「そうか、そうか、」と頭をかきながら笑っていた。

それが会長との最後の会話になった。会長としての彼が終わったんだなあ、少し寂しそうな会長の後姿が印象的でした。

11 青山さんの思いで

新18回 漁業科 伊藤 清正

母校激動の時代に会長として物心両面からその先頭に立って支援をされたことを今でも思い出されます。私自身越丸の航海士から専任指導教官に変わり、当時の組合活動の激しい時代、教員としてどのような姿勢で生徒と接すれば良いのか、能生水の伝統を守り、強い心の生徒達を育てるにはどうすればいいのか悩んでいました。

その時人間としての生き方、正義とは何か、生きるということは何かを、この28歳の若造に話されている姿は真剣そのものでした。お忙しいのに、私の為に時間を割き励ましてくれました。今の自分があるのは青山さんのお陰です。人様を裏切ることをしてはいけない、誠実に「至誠を貫く」ことを教わりました。

又、創立90周年記念北陸漕艇大会を初めて能生で開催するに当り、会長直々に私を連れ上越の有力者を回り現金で100万円を持たせてくれたことも思いでの一つです。

会長はスーパー全盛の時にあっても、自分の学生時代にやっかいになった能生、糸魚川には絶対出店しない、その地域の商店を苦しめてはならないと話されていました。青山さんの語りには商人としての哲学、私達の知り得ない人生の歩みがあったことを感じることができました。ご逝去の時あの大きな厚生南会館に青山さんを慕う人でごった返したことを思うに付け、何と偉大な人であったか、魅力のあった人だったかと思ひ出しております。

おわりに

青山さんは9年間の長きにわたり能水会の会長をされた。しかし青山さん自身の書かれた記事というものは見あたらない。それではと思い大正13年発行の「日本海」11号を見たら、第3学期の学芸プログラムに「詩吟」2年青山真治と載っていた。だが、その時の演目はわからなかった。

後日談だが、青山さんは上杉謙信ゆかりの毘沙門天を敬愛していたそうである。謙信と言えば「義」。詩吟も謙信を謡ったのだろうか。青山さんの生き様を見るとまるで謙信を見るようで、「義」に生きたひとであった。

今回の先人の歩みは青山さんゆかりの人達からお聞きした内容を元に構成しました。ご協力頂いた方々は下記の皆様です。ありがとうございました。

飯田美恵さん (青山さんの長女)

飯田祥二さん (青山さんのお孫さん)

金子孝利さん (32回養殖科)

大島悌三さん (新6回漁業科)

文責 新18回 漁業科 伊藤清正

東京支部総会開催

東京支部 広報部

(新制21製) 谷口 吉二郎

2月16日(日)上野東天紅にて第30回一般社団法人能水会東京支部総会並びに第26回OB親睦新年祝賀会が開催されました。当日は晴天に恵まれましたが、前日までの大雪で交通機関の大混乱と残雪があり足元の悪い中にもかかわらず、遠路各支部長を始め支部会員の大勢のご出席を賜り盛会裏に行われました。

11時より新制17回伊藤信雄幹事の司会にて開会宣言で始まり、校訓唱和、51名の物故者に黙祷、能水会副会長新制16回伊藤常男東京支部長より各支部より大勢の会



員の皆さんにご参会頂き、このような集いを基に母校への支援のエネルギーにしたいと挨拶が行われ、25年度事業報告及び

会計報告について新制20回磯貝光三会計長から、新制11回丸山武紀氏から監査報告がなされ、新26年度事業計画案及び会計予算案等各議案を審議したところ全員異議無く承認されました。

その後、ご来賓の能水会会長岩崎昇様より奨学金制度の開始と母校に何が出来るか、能水会顧問山崎光雄様のご祝辞、母校新潟県立海洋高等学校校長山岸克夫様よりご祝辞の後、最近の生徒の活躍状況・女子寮の不足・老朽化した海洋丸の代船問題等報告がなされました。能水会事務局渡辺宏幸様より、母校同窓会本部及び各支部の活動報告があり、最後に司会者より総会の閉会宣言がなされました。

東京支部恒例の新春セミナーは17回を迎え、今回は講師として、(株)リアルフリート会長、筑波大学大学院客員教授 小寺圭様をお招きし「これからの10年をどう生

きるか」「日本の歩んできた道とこれから」と題して講演を頂きました。小寺氏はソニーにおいて中近東、アジア、ヨーロッパに駐在しマーケティングに関する要職を歴任後、ソニーマーケティング社長、ソニー・チャイナ会長、ソニーグループ役員、日本トラザイス社長兼会長を歴任。豊富なマーケティング経験、海外でのビジネス経験豊富な有識者であります。

概略は次の通り、「グローバル化の行方」と題し、パワーポイントを使い現在のアベノミクスに始まり金融政策、財政政策、成長戦略、為替の問題でトヨタ、ホンダ、ソニーを例に解説。何故インフレで景気が回復するのか？円安が本当に日本にとって良い事？日本の国債残高の問題、日本の株価の70%が外国の大口投資家（フェッジファンド）が数時間で何兆円も動かしている。また、世界の財政危機は中東、ヨーロッパで発生、中国

の不良債権額はどれだけあるか分からない、しかし共産党が支配の中国では心配ない。世界経済の勢力図は産業革命前に戻る

（世界のGDPに占める主要国のシェア）富の追求。人口・出生率と生産年齢人口（日本の総人口も減少傾向、推移・生産年齢人口「16才～65才」の問題と諸外国の推移）、世界の平均年齢比較、地球の人口は半世紀で倍以上になっており今後の半世紀で140億人になる計算となるが大丈夫か？地球の温暖化防止策は？石油・ガス・ウラン等の資源はいつまで続くか？日本の農林水産業の現状：就業者数の減少、低い年間所得、所得が低く高齢化（平均66才以上）で厳しい現状、しかし構造改革・補助金・企業の力を借りる・大規模化・資源の活用・個人の努力など考える余地あり。また農協貯金総額91兆円あり？ 本当!! 戦後、モノ作りの波、ITの波、金融の波があり日本はアメリカの起す波に乗り切れていない。次の環境ビジネスの波にどう乗るのか？年代別図解で解説されました。また物作りが垂直型から水平型に変わり付加価値付けが必要になって来た。



50年の大局の流れを考え、次の10年の日本、会社、自分はどうかあるべきか、「Insight」物事の表と裏も見る事が必要と約1時間に渡り、大変興味深いお話を拝聴させて頂きました。

第二部は、第26回OB親睦新年祝賀会が新制12回柳沢貞臣氏の司会で、スタート。ご来賓は新潟県人会館理事長、東京糸魚川会副会長の小林保廣様より学生時代の、駅での能水パンカラ生徒の笑い話を交えご祝辞を頂きました。

引き続きご参会頂いた各支部長にご登壇をお願いし、東京支部顧問新制6回宝金徹男様の音頭で、糸魚川市の五蔵のお酒で乾杯し一気に盛会となりました。

ご歓談に入り、上野東天紅の中華料理を食べながらビール・紹興酒・日本酒・焼酎・・・と各テーブル盛り上がってまいりました。お酒も少し回って、伊藤信雄幹事を中心に登壇し、青い山脈の大合唱、そして母校新潟県立海洋高等学校相撲部監督村山智明様より5名の母校相撲部OB一人ひとりの活躍が紹介され、現在は日本体育大学相撲部でご活躍中、また新たな人生の船出の人と期待され更なる活躍に大きな拍手が送られました。そして恒例になりました、新制12回の鈴木邦男様と新制21回の山田正様が登壇し相撲甚句を御披露されエールを送りました。



今回はサプライズがあり、昨年10月に演歌歌手としてデビューした天翔龍さん（本名 小野龍一氏新制23回卒）と司会者よりの紹介があり、持ち歌である「根室海峡」一曲が披露されました。

クライマックスは有志による第一校歌を斉唱し、続いて第二校歌で大合唱、応援歌も会場に鳴り響いて最高潮となった。時間も押し迫る中で、新潟の田舎を思いながら「故郷」を会場全員で合唱した。

丸山武紀監査役よりご参会頂いた皆様方に謝辞を申し上げ、最後の大メは東京支部幹事新制5回高橋保司様より心のこもった感謝の言葉を添えて音頭を執って頂き、

引き続きご参会頂いた各支部長にご登壇をお願いし、東京支部顧問新制6回宝金徹男様の音頭で、糸魚川市の五蔵のお酒で乾杯し一気に盛会となりました。



滞りなくOB親睦新年祝賀会をお開きとする事が出来ました。ここで突然に海洋高等学校校長 山岸克夫様よりお礼の万歳三唱が入りました。

司会者よりの閉会宣言を受け、お互いに来年の再会を約束し散会となりました。今回は関東甲信地区の記録的な大雪で、交通の大混乱が発生するアクシデントの中で100名以上の出席を賜り、新潟県人の粘り強さと能水魂・絆を感じ取りました。能水会本部、各支部長、ご来賓の皆様、支部会員・幹事のご協力で盛会裏に終了しました事に厚く感謝し、皆様のご健康ご多幸をご祈念申し上げます。

尚、平成27年も東天紅上野店にて2月中旬に開催を予定しております。来年も幹事一同お待ちしております。

今回の総会に水産経済新聞社と上越タイムス「糸魚川タイムス」が取材され記事に頂きました。

第5回能水会静岡県支部親睦会

能水会静岡県支部長 新制7回 福地 俊

去る6月22日日曜日に静岡駅前のクーポール会館に於いて開催しました。

今回は一人でも多くの方に気軽に参加して頂く様に会の名称を「総会」から「親睦会」と改称して案内状を出しました。お陰様で前年より3名多い17名の方々が伊東市・裾野市・沼津市・富士市・静岡市・焼津市・藤枝市・浜松市と県内各地から参加して頂き喜んでおります。毎回のことですが東京より能水会会長岩崎昇氏、東京支部長伊藤常男氏、能生から渡辺宏幸能水会事務局長のご参加を頂き心より感謝申し上げます。

岩崎会長より能水会の運営方針や現在進めている事業の報告等のお話、渡辺事務局長から学校の近況等のお話後、親睦会になり毎回の様に話に花が咲き予定の3時間が過ぎ、最後は恒例になりました「校歌」と「応援歌」そして「ふるさと」を全員で大合唱して盛会の内に来年の再会を約束して閉会しました。



尚、閉会后希望者で二次会へ行き、カラオケで賑やかな時間を過ごし、夕方6時頃に静岡駅でお互いの健康を気遣いながら別れました。

今年は、昨年発刊された能水会の名簿を参考にして静岡県内に住んでいる方々の名簿を沼津地区、富士・富士宮地区、静岡地区、焼津地区、浜松地区と5地区に分別して、平成26年度版の名簿を作成しました。在住者は77名でした。それに追加で東京支部で役員をされていた新制21回卒業の谷口吉二郎氏が6月に藤枝市に転居され焼津地区に加わり親睦会にも参加して頂き大変喜んでおります。

年々会員が高齢化し減少して行く状態で会の運営も現役員の年齢も支部長が78歳、副支部長が76歳と75歳で高齢のためなかなか良いアイデアも浮かばずマンネリ化しているので早い機会に若返りを計り東京支部と連携を密にして支部運営を進めたいと希望しております。最後に、県内在住の能水会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

上越支部総会開催

新制20回製造B 山岸 彰

昨年度は、上越支部を復活させようと強い周囲の声が高まり、3月30日に直江津駅前「ホテルハイマート」にて、68名の出席を頂き総会を盛大に開催することが出来ました。心より感謝申し上げます。



さて、上越支部も皆さんの御陰で再出発を致しました。今後の活動に役立てたい、人間関係、情報交換、親睦を深めたいとの目的で、本年度も総会及び親睦会を開催することとなりました。7月19日高田駅前「高田ターミナルホテル」において、42名の出席を頂きました。能水会長様、海洋高校校長様、始め東京支部、新潟支部、長岡支部、能生支部、糸魚川支部、青海支部、本部事務局の皆様には、遠方より、お忙しい中でのご支援心より感謝申し上げます。

総会を通して、能水会、母校のために何ができるか、何をすべきか、考えさせられました。一生懸命取り組みたいと思います。また、各先輩方から色々アドバイスを頂き、今後の活動に生かしていきます。



親睦会も和やかで楽しい一時を過ごすことが出来ました。一人一人のその姿に、元気で力強くそして若々しい姿と団結の強さ、校歌の力を痛感と感動いたしました。これからの上越支部は、若い人たちの参加、会員を増やすことです。私は、仕事、趣味、あらゆる面で協力し合う相互親睦で地道な活動を展開して行きたいと考えております。

今後、更なる能水会の発展のために、新潟県8支部(新潟、佐渡、長岡、名立、能生、糸魚川、青海、上越)の交流を深め、広域連合の結束を目指し組織強化を図ることが大きな課題であります。その中で上越支部がモデルとなる支部となるよう頑張ってお参りますので、よろしくご指導、ご支援の程お願い申し上げます。

卒業以来、初めての同級会

新制24回増殖 加藤 正利

新制24回増殖科(昭和47年卒業)の同級会を、平成25年11月9日に糸魚川姫川温泉「ホテル國富」にて紅葉も見頃で見事な景色が広がる中、佐藤優先生をご招待し15名で開催しました。

系列ホテルの糸魚川温泉「ホテルアネックス」で全員集合し、今回は皆、還暦を迎える年となるので、糸魚川の一宮神社にて還暦のお祓いをして頂きました。神主さんのお話によると、人生最後の厄払いだそうなので、厄払いと還暦のお祝いをして頂きました。また、今回残念ながら参加できなかった3名の方々も一緒にお祓いをしてもらいました。

今回監事を仰せ付かり、ホテル前で皆を迎えたのですが、何せ42年ぶりの再会ですので、玄関先で入ってくる人を見てみると・・・あの人は、かなり年輩そうだから違うかな?とか、あの人は髪の毛が薄くなっていてとても同級生には見えないな・・・とかで、声をかけにくい中、その人たちに声をかけられ、啞然としながら名前を聞き、一気に42年前に戻る自分に驚きを感じました。

宴会場では、42年ぶりに高校時代の話で皆が盛り上がり、あちらこちらでグループが出来てしまい、佐藤先生に「おまんた、それぞれ近況報告しないや!」との一声

で皆席に戻り一人一人近況報告をし先生との思い出を交えながら、宴会もあつという間でした。2次会は監事部屋にて全員集合し、酒・ビール追加注文し皆の酒豪ぶりに驚きました。おかげで支払時に予定額より大幅に足りず、追加徴収する羽目になりました。

翌朝、佐藤先生の案内で海洋高校を見学することになり予定がある人以外の数名で高校に行き新校舎を見学したのですが、我々が通学当時の面影は全くなく、先生から「ここに旧校舎があった所だよ。」と説明を受け少しづつ思い出しました。皆とはここで3年後、全員再会を約束して解散し無事に同級会を終えることとなりました。



参加して下さった皆が再会を喜び「とても楽しい時を過ごせたよ。」等々と声をかけてくれたので、還暦祝いを兼ねた同級会を開催して本当に良かったな・・・と思いました。皆さんご協力本当に有り難うございました。

越山丸 大八木船長 の思い出

新制20回漁 松嶋 順二

始めから個人的な思い出を話す事をお許してください。

私は昭和43年漁業科卒業後2代目越山丸、昭和55年3代目越山丸、平成6年くびき転船、大八木船長退職までお世話になりました。

2代目越山丸に船員として乗船するため元新潟鉄工の船員寮の風呂で大八木船長の背中流しながら話をした事が懐かしく思い出しています。

新船1次航海ハワイ沖で操業中、私自身の不注意で怪我して一時は意識不明だったと思いますが、九死に一生、今の世に生還出来たのも大八木船長はじめクルーのお陰であります。

その後声帯に障害が残りましたが、新潟大学病院で声帯を手術し声に戻りました。1年後職場に復帰した時、船長に暖かく励ましの声を掛けられた事を昨日のように思い出しています。

当時の越山丸は、主に遠洋マグロ延縄漁業実習で、マグロの各種調査も行っていました。

私は、甲板員で操業中の部署は冷凍係りでした。マグ

口のエラ、内臓取り 各ブロック解体、凍結庫作業・魚艙作業、その他甲板での漁撈作業です。

当時は専管水域200海里以前だったので、1回の操業で約2トン～7トン漁獲量が有り、どこの部署も忙しく、凍結係りは3名体制でしたが、無我夢中の毎日でした。そんな時、船長が甲板に出て来ると必ず声を掛けてくれました。今で言う元気、勇気、やる気が沸いてくる言葉を掛けていただきました。

航海中であっても船長は、日常の漁具作りには、船員・生徒と一緒に釣り巻き、縄サツマ、ブラン作りには無駄口は開かず黙々と仕事し、手早くしかも綺麗に作り上げていました。

揚縄中、かかったマグロ・カジキの釣り針がハズレることもあります。その時、船長がモリを打つのですが、仕留めるのが1番でした。時には手足に擦り傷をおっていましたが、何時もニコニコと笑っていたこと思い出されます。



昭和50年 サモア入港現地の少女と (53歳)

私が昭和49年に始めて3等航海士となり、船橋で当直に立つ時、何か異常や不安があったらいつでも連絡してくれと言われていましたが、荒天、霧中、航行等に支障がある時、連絡すると直ぐに船橋に来て適切な指示を出してくれたことを思い出します。

漁場は北洋、北太平洋、南太平洋、サンゴ海、インド洋でしたが、船で漁場に着くまで、2～3週間ぐらいかかります。実際に航海して、海図で航跡図を見ると随分遠い所ころに来たと言う実感でした。

私は両親を早く亡くしていますので、大八木船長と過ごした25年間は、親より長く一緒に生活をさせていただきました。

航海士になった時、結婚した時、子供が誕生した時、家を新築した時、海洋高校の小型実習船くびき転船の時、何か人生の節目に部屋に呼んでもらいコーヒーをご馳走になりながら、激励の言葉やどんな相談にも乗ってくれたことを思い出しております。

船長は日ごろから紳士的で背筋を伸ばし、眼光輝し剛健で穏和人柄でした。

洋上生活も長くなると色々な難関な事が降りかかってきます。しかし、どんな難関な事案であっても解決する

まで、すさまじい気迫で対処していた姿が、印象的でした。

まさに、20代の若さから一船を任せられ大船長の風格が何時もにじみ出ていました。

船長は運も強く、クールにも恵まれたと何時も言っていました。練習船なので、無理をしてはいけません。安全第一だ。総員協力し、特に実習生が元気で三崎港に入港するまで気が抜けないと常日頃言っておられました。3ヶ月の航海でどれだけ生徒達を成長させられるかが、我々に科せられた任務とも言っておられた。その大八木船長が今年1月1日にお亡くなりになられるなんて、大恩ある船長であった。どんなに感謝してもしきれない大船長であった。ご冥福お祈りいたします。

糸魚川の”五歳の酒”で乾杯

新制20回製造 秋山 建治

2週続きの大雪の中、第26回能水会東京支部OB親睦新年祝賀会が、2月16日(日)東京上野・東天紅本店で開催され、100人以上が集まり旧交を温めた。

関東地方の雪で交通の混乱もあった中、新潟県や千葉県など関東一円の支部からもOBが駆けつけた。各テーブルでは雪の話が持ち上がり、高校時代の雪にまつわる思い出話が花をそえた。

高校時代相撲部で活躍し、現在日本体育大学で勉学とスポーツでがんばっている、新たな人生をかざる4年生や1年生のこれからの活躍に激励の拍手が送られた。また、プログラムの真ん中あたりで、昨年10月に演歌歌手としてメジャーデビューをした、天翔 龍(本名・小野龍一) 会員さんのサプライズステージで会を盛り上げていただきました。

最後に、恒例となった校歌と応援歌を大合唱をして会が終わりました。

総会の席上、伊藤常男東京支部長が「少子化による入学生の減少や女子生徒への対応、実習船海洋丸の代船問題などもあり、同窓会として一つにまとまり、母校を後押しをしていきたい」と話をした。

第26回能水会OB親睦新年祝賀会に参加してすこばかり同窓会のことについて述べたいと思います。

全国各地の支部の会長・役員の皆様には日ごろより同窓会活性化のため並々ならぬご苦勞をしていただいていることに対し、先ず感謝し厚くお礼申し上げます、ありがとうございます。

一方、各支部共通のことですが、いくら参加を呼びかけても参加をしない人、参加する気が全くない人が多いことも事実です。参加は、強制するものではなく、参加するかしないかは本人の自由です。支部役員から聞く苦勞話は、「案内のハガキを出しても返事をよこさない人

が非常に多い」ということです。

参加しない理由として、1、「参加者は先輩が多く、威張っているようでいやだ」2、「参加したいが男性ばかりのようでいやだ」3、「出席してもメリットがない」往復ハガキで案内をもらったなら、たとえ欠席するにしても返事を出すのが礼儀であり、社会の常識で誠意ではないでしょうか。

総会では、参加者どうし皆が同じ年代のように、能生水産高校・海洋高校のファミリーの仲間として、ワイワイ楽しく交友を深めています。3番目のメリットがないということですが、それは確かにあると思いますが、卒業年次が離れていると、全く出会うことがない先輩・後輩に同窓会を通じて出会うことが出来ます。

気心の知れた素晴らしい先輩・同年代・後輩に出会えることもあり同窓会に出席し若さを取り戻し、活力が湧いてくる。これが何よりもまして最大のメリットだと思います。自分自身に与える若さを保つ栄養剤だと思い、参加してください。

OB親睦新年祝賀会に参加した秋山より

親愛なる同窓生諸君。諸君は誇りを持って、誇りを。誇りとは日本国に生まれた誇りであり、日本人としての誇りである。そして諸君の生まれ育った郷土に対する誇り、諸君を生んで育ててくれたご両親に対する誇りである。決して忘れてはならないことは、能生水産で学んでよかった、能生水産を卒業してよかったという母校に対する誇りを持つことである。

誇りを持ってない者には進歩も発展もない。同窓生の絆を分かっていただけのものでしょうか。同窓会を今後とも益々発展させましょう。「母校に誇りを同窓会に誇りを持って下さい」支部総会で一人でも多くの同窓生にお会いできることを楽しみにしています。

名湯月岡での「能生清会」

新制39回漁業 本間 英樹

夏本番、猛暑日が続く8月2日、越後の名湯「月岡温泉」にて同級会「能生清会」を開催いたしました。



能生水を卒業（昭和62年）して早30年近くの月日が経ちましたが、久しぶりに見る級友との再会はとても懐かしく、在学中と比べ白髪が増えたり薄くなったり、顔のしわも目立ち年をとったなと思いました。

その中でも何一つ変わりになく昔のままだったのが、伊藤清正先生でした。私達は6人という少人数でしたが、先生が初めて受け持つクラスであり、卒業生でしたので「能生清会」と名付け、先生の退職を期に、数年に一度同級会を開くこととしたのです。

6人だからこそ団結力があり、今まで欠席者もなく続いていると私は思っています。又、集れば最近の近況に始まり、昔話に盛り上がるのですが、最後は何時の間にか先生のペースにはまり、飲み明してしまいます。

それと、今回は、私達在学中の実習船「越山丸」の3等航海士だった松嶋さんも参加して下さいました。

いままでになく実習の時の話などに花が咲き、思い出に残る同級会となりました。

松嶋さん有難うございました。私もよく子供に言うのですが「親友、友達を沢山作りなさい。これから先、親よりも友達を頼ることが必ずあるからと。」

自分の経験上ですが、私は良い級友に恵まれ、先生に恵まれ、今の自分があると思います。勿論、在学中の3年間の寮生活も忘れてはいけません。

私の礎は能生水からだと思うのです。最後に30年ぶりの原稿を前に、ペンを走らせていますが、これからも能生水（海洋高）能生清会を大事にし、皆様のご多幸をお祈りし、終わります。次の再会を楽しみにしています。

夢は叶う

キングレコード

天翔 龍（あまかけ りゅう）

昭和46年卒漁 小野 龍一



人生頑張っていればいつかは夢が叶うと言う事が解りました、この年で若い時の夢が叶うなんて。

昨年10月キングレコードより全国デビューした天翔 龍と申します。（新23回、昭和46年3月、漁業科卒業、小野 龍一です）

歌手になったきっかけは、元々歌が好きでしたので約3年前よりカラオケ教室に通っており色々な大会、発表会などで歌っておりました。そんな折カラオケスナックのママさんより歌手になったらと、声を掛けて頂き作詞

作曲家の先生を紹介され、それがきっかけで歌手デビューする事になりました。数ヶ月間のプロ歌手としてのレッスンを重ね10月23日CD全国発売、12月1日デビュー記念コンサートを行って頂き会場には約600人の人で埋まり盛大に行う事が出来ました。

何気無く聞いていた歌に、ある日突然勇気をもたらしたり、希望をもたらしたりした事私は今でもはっきりと覚えております。その歌手の歌い方次第で皆さんに詞の内容をお伝える事が出来るんだと思っております。タイトル曲「根室海峡」は故郷を思う男の哀愁を歌っています。「エメラルドの雨に」「恋女房」では愛や夫婦の絆がテーマです。この2曲は以前転勤などで苦勞をかけ、今はマネジャーとして私を支えてくれる妻に思いが重なります。

還暦を過ぎてからのチャレンジですが「この年でしか歌えない曲を多くの人に聴いて欲しい」同世代に共感して頂き、お客様から愛される歌手になりたいと思っております。

ただオフィス天翔は何の組織もない私と妻2人で行っている小さなオフィスです。会社勤めと両立と言う事もあり中々活動にも制限があるというのも事実です。

夢を実現しただけでは無く、いつかはNHK歌謡コンサートに、そして次はNHK紅白歌合戦へと夢と希望を常に持ち頑張っていきたいと思っておりますし、その時には是非共能水会の皆様方のご支援を頂ければと思っております。因みに12月7日には胎内市のロイヤル胎内パークホテルで天翔 龍デビュー1周年記念パーティーを開催します。お時間の取れる方は是非お越し下さい。

最後になりましたが、能水会会員の皆様ならびに母校の今後の益々のご多幸とご発展を祈念致して失礼致します。

これまでの歩み

平成21年度海洋工学 大野 一樹

魚のことが好きで機械にも興味があった私は、海洋高校の海洋工学科に入学しました。新潟市在住だったため、入学と同時に鷗雛寮に入寮しました。



在学中はカッター部に所属し毎日海に繰り出していました。また、座学の他にも工場での工作実習、測量実習、30日間の乗船実習など様々なことを学びました。

入学当初は進学するつもりは無かったのですが、機関士を志し、先生方の勧めもあり水産大学校に進学しました。

私は現在、海洋調査船で見習い機関士をしています。自分から進んだ道ですが、実際に働く苦勞も多いものです。

航海中は一日に2回、4時間のワッチ（見張り）に入りますが、調査が始まると通常のワッチにデッキ作業が加わり、長時間の労働と不規則な生活が続きます。自然相手の仕事であり調査ができるかどうかは海況次第、機器の運転状況も海水温、気温、湿度等の影響を常に考える必要があります。

私は海洋調査自体ではなく、調査船の運航、調査機材の着水揚収等、裏方の仕事をしています。それでも、海洋調査に携わり調査結果にいち早く触れられることや、自分で整備した機器が正常に運転したときなど、充実感ややりがいを感じます。

海洋調査船は海洋高校での経験を生かせる場だと感じています。いつかは海洋高校に恩返しができるよう、これから更に経験を積んでいきたいと思っています。

夢追って

平成22年栽培技術術卒

小林 加奈

幼い頃から水族館の飼育員になりたいと思い、高校から進路を考え一目惚れしたこの海洋高校に入学しました。好奇心旺盛な私にとって、2年次のコース選択肢にだいたい迷いもありましたが、栽培技術コースでたくさんの事を学び、学校生活もかなり充実した3年間を送りました。

そしてついに進路を決める時、これもまた大学へ行くか就職するか考えた末、すべての水族館を調べ、電話を片っ端からかけた結果求人を見つけ、テスト項目にあった水泳を潜水実習棟で練習もしました。

たくさんの人達の協力と応援を支えながら、合格をいただき、現在千葉県にある鴨川シーワールドに務め魚類やウミガメを主に担当して5年目になろうとしています。

最初は仕事の内容よりも、社会で働くという事のような壁にぶつかることが多くありました。しかし、それにも少しずつ慣れ、今は生き物を育てるだけではなく、お客様に満足してもらうための「展示」をつくること、生

き物達は話せないので「病気」や「水質」に気づかなくてはいけないこと、掃除などの「潜水作業」等やらなければならない多くの仕事をこなしています。大変で忙しい仕事だからこそ、やりがいを感じ、時には先輩、後輩、同期ともぶつかりながら学び、大好きな生き物達に癒されながら充実した日々を送っています。

頑張ってます

平成24年卒マリン技術
大町 まい

私は、海洋高校を卒業して沖縄にあるマリンスポーツの専門学校に入学しました。学校では、ダイビングインストラクターや船舶の免許などを取得し、現在は、瀬底ビーチマリンクラブと言うマリンショップで働いています。



スタッフは、約20人で普通のダイビングショップに比べたら大きなショップです。ここでは、ダイビングだけではなく、スノーケルやシーウォーク、ジェットスキーやパラセールなどもやっています。仕事は、潜って泳いでと体力勝負と言う感じで正直キツイです。夏は観光客も増え休む暇もなく炎天下の中、毎日仕事をしています。休みも10日から15日に1回くらい。そんな中でもお客様からありがとうや楽しかったと言われると頑張ろうと思えます。メンバーも信じられないくらい良い人ばかりで毎日みんなで支え合いながらショップに来てくれたお客様に喜んでもらえるよう頑張っています。

沖縄に来て一人暮らしを始めて親の偉大さにも気付くことができました。家に帰ればご飯があり、掃除や洗濯をやってくれたり、あたりまえのことがとても大変で親ってすごいなあと思う日々感じます。それに、たまにかかってくる電話や送られてくる荷物や手紙がすごく嬉しくて応援してくれている人のためにも頑張ろうと思えます。地元に戻りたくても年中無休のショップなので帰れずに2年が経ちます。次に帰るときには、社会人として成長した姿を見せ、親孝行をしてあげたいです。



今後は、色々なポイントでダイビングをしたり、船舶の運転技術の向上や接客方法などたくさんの経験を積んで、すべてのお客様に喜んでもらえるようなインストラクターを目指して頑張っていきます。



春の太陽を招くとされる陵王。白山神社春季大祭の歓喜あふれる、クライマックス！



能生のシンボル 弁天岩の初雪！
夏の賑わしさから一転、静かな冬の訪れ。



私は浜木浦出身。木浦小学校、能生中学校、能生水産高校食品科学科で学んだ。父は漁師、母は繊維工場で働きたり野菜、米作りに励み、美味い料理を食べさせてくれた。そんな両親を見て育ったせい、中学二年頃、漠然と板前になりたいと思うようになる。高校の頃「天皇の料理番」というテレビドラマで、コック服、コック帽姿に憧れたのがフランス料理の道に進むきっかけになる。

私の将来の夢へのロードマップは、フランスへ渡り、三つ星のレストランで修業を重ね、帰国後、クレッセントの様な名門レストランの料理長に成る事だった。お陰様で夢は叶い、次の目標に向かつて、もがいている。幼い頃、私は両親に「オレは、何に成ったら嬉しい?」そんな様な問いに「ワレの好きな事をやれ」と言われた事が、今までの私を後押ししてくれたのだと感謝している。しかし、母は世界し生前に感謝の気持ちを伝えられなかったのが、残念でならない。

故郷を離れ大人になり、初めて能生の素晴らしさに気付く。毎日、当たり前のように頂いていた、冷えても美味しいご飯も、能生を離れなければ気付かなかったと思う。能生に生まれて本当に良かった。先日、クレッセントにご来店されたお客様が、ベビード「OFUKURO」を持参され、ラベルには「汐路」住所は能生と書いてあった。汐路の社長が、有機野菜に取り組んでいた事は知っていたが、ベビードの為に頂いたとお客様から教えて頂いたには大変励まされた。

シャルマンスキー場も自慢の一つだ。毎年お正月に行くせいか、毎回込み合っていないので、お客さんにとっては、最高だけれど…。しかし、がっかりしたことが一つあった。それは、午後二時頃カレー

を注文したら、ご飯を切らして、カレーが食べられなかった事があった。大袈裟な様だが、スキー場でカレーライスが提供出来なかったのは失態だと思

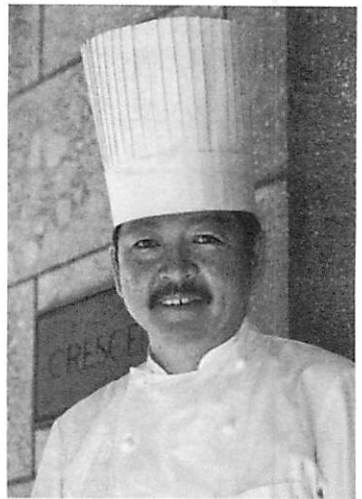
う。ここで激励の渦。日本各地には、有名な花火大会が数多くあるが、弁天岩が爆発して砕け散った様に見える爆雷などがある能生の花火大会は、私にとっては日本一の花火大会だ。しかし、もう二十年以上も見れていない。高校時代には、ヤマフ鮮魚店、岩崎鮮魚店(現在の魚勢で、海老の殻むきをしたり、お刺身の大皿盛りの配達などを楽しくやらせて頂き、大変にお世話になり何より小泊の、せりに同行するのが楽しみだった。現在も毎日、築地市場へ行くのもワクワクするし、長岡ナンバーのトラックや、能生漁港の魚箱を見かけると嬉しくて、たまらない。

「真妻わさび」は、辛味の中

に、甘味があり風味も素晴らしい。「越の丸茄子」も、京都の賀茂茄子よりブランド力は弱い品質では、肩を並べている。東京銀座の料理屋では、ブランドより品質重視で、両者共に、引っぱりダコである。京都の人達は商売が上手く、良い意味で「ズルイ」。それに比べると、能生の人達は「人が良すぎる」と、私の女房(関西出身)が、いつも言っている。しかし、これこそ新潟県人であり、謙虚さ、粘り強さは、新潟県人の誇りだ。生意気だが、ブランド力、PR強化も重要だが高品質あつての信頼だ、これからも誠実により良い物造りに励んで頂きたいと願っている。

能生商工会報
あけぼのVOL102より

クレッセント 代表取締役
料理長
磯谷 卓
(糸魚川市浜木浦出身)



プロフィール

【生年月日】昭和38年3月22日
【家 族】妻、息子
【趣 味】デバ地下巡り
【血液型】A型
【職 歴】・ホテルオークラ新潟
・レストラン花の木(福岡)
・1986年 渡仏
・1997年 帰国後
クレッセント(フランス料理店)
料理長就任
【現在の役職】クレッセント 代表取締役 料理長
【現在の住所】東京都世田谷区野沢

THE CRESCENT ミシュランガイド2014 二つ星
1957年創業、1968年後期ビクトリア朝風の格調高い、建築様式を採り入れ、英国風煉瓦造りの洋館に建て替えられ、再出発する。
【住 所】〒105-0011 東京都港区芝公園1-8-20
【電 話】03-3436-3211

感謝に逢い出
ふるさと能生
NOU

糸魚川市水産資源活用産学官連携事業の準備始まる

食品科学科 教諭 松本将史

食品科学科では、過去6年間で5つの開発製品の商品化に成功するとともに、平成25年には国際的な食品安全管理システムであるHACCPを非加熱食品の製造実習に全国高校に先駆けて導入する等、先進的な専門教育を展開している。

本事業は、学校外に同窓会が管理する食品工場を設置して、本校の商品開発や製造管理のノウハウを地域振興に生かしながらキャリア教育を推進することを目的に展開される。具体的には、課外活動として、開発商品と人気実習製品の量産や販売をしたり、地元水産物の有効利用・高付加価値化に関する基礎研究をしたりする予定である。

これらの取り組みのなかで、糸魚川市の知名度向上のみならず雇用創出の可能性も探ることができる。また、生徒が食品の開発から製造、販売に至る企業活動に主体的に取り組むなかで起業家精神を養い、地域振興に寄与できる人材の育成ができる。

起業家精神とは、既成の概念にとらわれない創造性、人を説得し協働できるコミュニケーション力、新しいアイデアを実行するためのチャレンジ精神や決断力等、起業家が持つ能力や態度の根底にある精神のことをいう。そして、起業家精神の育成教育は、文部科学省が推進するキャリア教育の方策として注目されている。



本事業の担い手となる生物資源研究部の生徒達

本事業の展開は、地域と協働するキャリア教育の極めて珍しい事例として全国的な注目を集められる。このことは、県内外の遠隔地から数十人の入学者を受け入れている現状をさらに発展させるとともに、糸魚川市の重要施策である若者の定着率向上や人口減少対策、交流人口の拡大等の課題解消につながる可能性も含んでいる。

9月9日現在、一般社団法人能生水会の新規事業として本事業を開始するため、同窓会事務局と連携して内閣府への認可手続きを行っている。認可後は、糸魚川市議会で工場設置に係る予算の要求を行い、平成27年4月からの工場稼働を目指している。事業計画からは、稼働当初に資金面で厳しい状況になることが予想され、事前の資金調達が不可欠となっている。その方策の一つとして、プレミアム商品セットや試作品の送付等の特典が得られる会員制のファンクラブを、市と連携して全国規模で組織し資金調達することも検討している。

今後、能水会の皆様からは様々な形で応援を頂くことになるとは思いますが、ご理解ご協力お願い申し上げます。



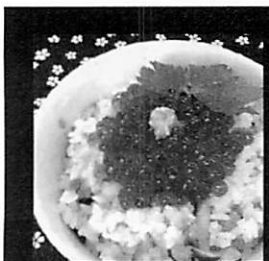
本事業の主力商品となる、能生川の遡上したサケを原料にした魚醤「最後の一滴」



NIIGATA PREFECTURAL KAIYO HIGH SCHOOL
新潟県立海洋高等学校謹製

百十六年の歴史と共に
海を愛し、海に学び、海と生きた学生たちからの
恵み豊かな贈り物。

高まる美味しさへの期待。



新潟県立海洋高等学校の生徒が
地元の川に遡上した鮭を有効利用
するために開発しました。
川に戻り最期を迎える鮭の一生と
料理の隠し味として使うことから
この商品名が生まれました。



最後の一滴

100ml瓶 本体価格 556円 (税込 600円)

200ml瓶 本体価格 925円 (税込 1,000円)

※平成27年4月1日以降価格を変更することがあります

【製造者】新潟県立海洋高等学校 生物資源研究部
新潟県糸魚川市能生3040 TEL.025-566-3155
<http://www.kaiyou-h.nein.ed.jp/>

海洋高校

検索

道の駅「マリンドリーム能生」における店頭価格になります。
卸売価格等、取引条件のご相談は新潟県立海洋高等学校食品科学科までご連絡ください。

新潟県立 海洋 高等学校



学校見学
随時受付中!

お気軽にお問い合わせ
下さい!

Niigata Prefectural
Kaiyo High School



さあ、はじめよう。
Begin!

平成26年度体験入学 7.31(木)

海洋高校で実習を体験しよう!

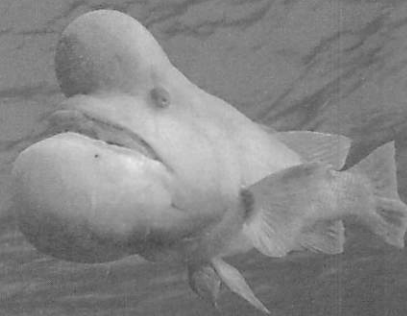
実習船「海洋丸」体験クルージング

新潟港発着 8.2(土) 能生漁港発着 8.3(日)

海洋丸ランチ付きのクルージング。フィッシング体験もあります!

学校説明会 文化祭と同時開催! 11.1(土)

公開講座「一日海洋高校生」開設中



マリンドリームに海洋高校 実習製品販売コーナー開設

食品科学科 教諭 長崎 睦夫

「海洋高校の生徒が作った水産加工品の味を皆さん楽しんで」という思いで今年の3月に道の駅マリンドリーム能生に本校食品科学科の生徒が実習などで作った水産加工品を周年販売する常設コーナーが新しく設置されました。

食品科学科では、校内のHACCP認定工場で総合実習の授業で水産加工品を製造しています。製品は、実習船海洋丸で漁獲したイカを加工した「いか一夜干し」、「いかの塩辛」や栽培技術コースで育てたヒラメを加工した「ひらめの燻製」の他に「さば水煮缶詰」、「さんま

味りん干し」、「スモークサーモン」等を入れ替えしながら周年販売を計画しています。

マリンドリーム能生では、昨年から生徒が開発した鮭を原料とした魚醬「最後の一滴」や生徒が開発し、地元企業が商品化した「すもう君サーモン」、「まこちゃんうどん」の特産品として販売してきましたが、売場が分散し、分かりにくかったということから海洋高校実習製品の常設コーナーの開設が決定しました。

4月から、食品科学科3年生の課題研究の授業でマリンドリーム能生の海洋高校実習製品販売コーナー売場管理を行い、販売や在庫管理やマーケティングを学び商品のブランド化につなげるための学習に取り組んでいます。



チルド品及び冷凍品 加工・販売

ズワイガニ（オビニオ種）タラバガニ・紅ズワイガニ
サーモンフィレ・浅葉子持カレイ。イワシ、アジ加工品

株式会社 **大昇食品**

取締役会長 廣瀬 直（新9製）
代表取締役 廣瀬 信彦

本社 〒684-0034 鳥取県境港市昭和町12-22
TEL (0859) 44-7511(代) FAX (0859) 42-2052
冷蔵庫 〒684-0034 鳥取県境港市昭和町2-32
TEL (0859) 30-3770 FAX (0859) 30-3771
URL <http://www.taisyo.biz>
オンラインショップ専用電話番号 (0859) 30-3077



系魚川 ふぐと季節料理

片岡 尚友
(室川) (新13漁)

店 〒135-0046 東京都江東区牡丹3-21-4
電話 (03) 3643-0802
自宅 〒135-0044 東京都江東区堤越中島3の5の27-710
電話 (03) 3642-9310

TOCHIN



代表取締役社長 関澤 年男
(新10製)

東京ちん味食品株式会社

〒264-0028 千葉市若葉区桜木3丁目22番12号
TEL : 043-232-3232(代) FAX : 043-232-5106
E-mail : info@tochin.co.jp
<http://www.tochin.co.jp>

海産物卸

地元産、国内産の珍味、
こだわりの商品を沢山
とり揃えています。御利用下さい。

新潟県糸魚川市大字能生2893番地14

有限会社 **竹田**

代表取締役 竹田 勝利
TEL 025-566-4986
FAX 025-566-5230



有限会社 **松田食品**

取締役会長 **松田修一**
(新10製)

〒410-0813 静岡県沼津市上香貫三貫地1169-5
TEL (055) 932-1372(代)
FAX (055) 934-1302



自由鍛造・精密型打鍛造
山越工業株式会社

新18回増殖科卒 (昭和41年)

会 長 **山岸敏治**

事務所 〒563-0026 大阪府池田市緑丘2丁目2-19-301
工場 〒555-0041 大阪市西淀川区中島2-13-49
TEL 06 (6475) - 8018
FAX 06 (6475) - 6758
E-mail t-yamagishi@sanetsu.co.jp
URL http://www.sanetsu.co.jp

健康志向のいまだから……

おふく楼では、無添加 有機JAS認定調味料・
ドレッシング・ベビーフードを
製造・販売しています
安心・安全・健康を
食卓にお届けします

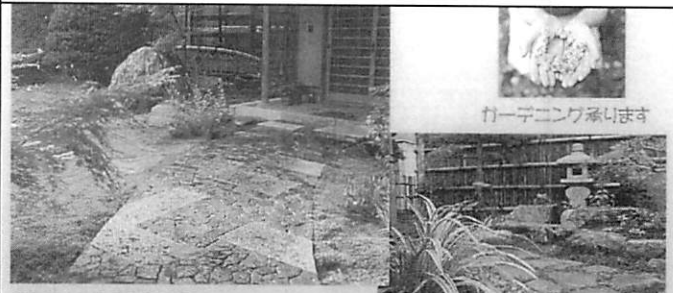
お問い合わせは
<http://www.shioji.co.jp>



株式会社

味千家路

代表取締役
山田勝利
(S12F)
〒949-1352
新潟県糸魚川市能生1570-1
TEL 025-566-2662
FAX 025-566-5129



株式会社英香園 上越市戸野目92-2
代表取締役社長 伊藤春男
新製18回卒業 7000坪の日本庭園を
インドで造っています

高田開府400年
城下町
番傘ライトアップお手伝い

Tel025-523-4971 <http://eikoen.com/>
Facebook始めました

うなぎ卸

〒158-0081 東京都世田谷区深川3-27-10

等々力水産株式会社

TEL 03-3704-4547
FAX 03-3704-5322
代表取締役 松尾勇司 (S18F)

うなぎ **ほさかや** 自由ヶ丘店

TEL 03-3717-6538



株式会社 越後薬草

本社・工場 〒942-0055 新潟県上越市小猿屋73番地
TEL. 025-544-3050 FAX. 025-544-3074

きのこ工場 〒949-1337 新潟県糸魚川市桂541番地
TEL. 025-566-3434 FAX. 025-566-3451

キムチ工場 〒949-1337 新潟県糸魚川市桂541番地
TEL./FAX. 025-566-3450

〔ホームページ〕 <http://www.echigoyakuso.co.jp>

深田久弥が選んだ日本百名山のひとつ、
雨飾山。その新潟県側標高900mに位置
する雨飾温泉は、雨飾山登山の基地とし
て親しまれています。山荘すぐ横が登山道
になっており、薬師尾根を登ること4~5時
間で頂上に達します。春の新緑、秋の紅葉
を楽しみ、登山のベースキャンプとして、
また、登山後の休息地として温泉に浸かり
疲れた身体を癒してください。

〒949-0544新潟県糸魚川市梶山雨飾温泉
雨飾山荘
直通電話 **090-9016-3212**

※ご宿泊はご予約ください

雨飾温泉

株式会社

渡邊信明内装

建築施工・管理

代表取締役

渡邊信明 (S63増卒)

〒940-1105 長岡営業所
長岡市摂田屋1丁目16番42号
TEL/FAX 0258-89-7336
携 帯 090-3646-2830

E-mail : wn-naisou@galaxy.ocn.ne.jp

物故者名簿

28製	横山 富夫 (東京都)	H25. 5. 19
31製	中村 初栄 (札幌市)	H26. 1. 22
31製	三国栄次郎 (佐渡市)	H25. 6. 18
34製	中村 三男 (千葉市)	H25. 10
34製	村山 常雄 (糸魚川市能生)	H26. 5. 11
39製	平塚 孝 (糸魚川市清崎)	H25. 11
新5漁	黒石 仁久 (東京都)	H25. 5. 26
新5製	池田 貞夫 (横浜市)	H25. 10
新5製	藤縄 久八 (東京都)	H25. 10
新7製	椎 一男 (佐渡市)	H25. 6. 24
新7製	南雲 一雄 (藤沢市)	H25. 9. 22
新7増	中沢 和久 (足柄下郡)	H25. 9. 21
新10増	勝島 武夫 (上越市)	H25. 5. 25
新14漁	山崎 定 (越谷市)	H25. 9. 26
旧職員	砂塚 定幸 (柏崎市)	H26. 4. 19
旧職員	大八木鉄也 (千葉県柏市)	H26. 1. 1
旧職員	伊藤 義造	
旧職員	市橋 勉 (佐渡市)	H26. 3
		H25. 6. 8~H26. 6. 12

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編 集 後 記

朝夕めっきり涼しくなり、田には黄金色に輝く稲穂、沖には秋の魚を求めて底曳き船が行き合っています。

学生時代に習った海上気象では、今年の夏は太平洋高気圧とシベリア高気圧が拮抗し、その狭間にあった日本列島は異常気象、特に西日本では大災害をもたらしました。天気が回復し秋晴れの日が続くと、もう過去のことを忘れ、何事もなかったように本当に人間の心はうつろいやすいです。

さて、母校海洋高校と会員の「かけはし」となる「日本海」は皆様からお寄せいただいた玉稿、情報により構成されます。更に多くの皆様からの広告掲載をいただき、ここに13号を発刊出来ますことを感謝申し上げます。

色々な会合に出ますと、「海洋高校の同窓会は良いね」といわれます。皆んな母校愛に燃え、協力的だと。

これは、学生時代同じ釜の飯を食い、厳しい実習の中から生まれた連帯感から自然に発生することかも知れない。お願いすれば協力してくれるのが「能水魂」?

赤い振込み用紙が入っていたら、1,000円の年会費、1,000円の産業教育活動支援制度基金へ浄財をお願いします。これこそ、母校発展の原資になることをご理解い

ただきたいと思います。

いよいよ、夢の新幹線がやってきます。来春3月14日開業。上越妙高、糸魚川には1日15往復の停車。

今、開業に向けあらゆる面で急ピッチで作業が進められています。上越妙高、糸魚川は何で勝負するのか。

どのような特色が出せるのか、既成のものではなく独創性のあるもので勝負しなくては。

そこで登場「我が母校」今回の紙面にもあるように、次々と新製品を開発し勝負を挑んでいます。実に立派。

更に追い風あり、それは、政府が小中高で教える内容を定める「学習指導要領」の総則に海洋教育の重要性を明記する方向であり、既に13年策定の海洋基本計画でも海洋教育の充実を大きく取り上げていることであります。

今年の体験入学も希望者が殺到し、しかも全国からである。学校が日々進化を遂げ、生徒、職員が一体になり全国に発信しているからであろう。とにかくうれしい。学校の近くにいるとそれがビシビシ伝わってきます。

(K, I)

お 願 い

会報「日本海」への原稿及び広告掲載のお願い。

- ① 原稿 800字程度、一太郎、ワード等による場合にはフロッピー (SD、USBメモリ) または、事務局Eメールに送付いただければありがたいものです。ご自身の写真も1枚お願いします。
- ② 広告 掲載規格は6,5cm×8,7cmとなりますが、既に掲載された広告を参考にしてください。掲載料金は1件10,000円となります。

会報「日本海」編集委員

広報委員長	S 5 i	佐藤 優
副委員長	S 1 1 B	富田 達治
委員	S 1 1 B	岡崎 辰三
(幹事) 委員	S 1 8 F	伊藤 清正
委員	S 2 1 B	田中 道夫
(写真) 委員	S 2 1 i	家崎 長治
委員	S 2 4 B	石井 順二

広報連絡先

〒949-1352 糸魚川市大字能生2447-7
TEL・FAX 025-566-4079

広報事務局 伊藤 清正

発行者 一般社団法人 能水会

同窓会事務局

〒949-1352 新潟県糸魚川市大字能生3040

新潟県立海洋高等学校 内

TEL 025-566-3155 FAX 025-566-4781

事務局長 渡辺 宏幸

事務局携帯 090-5547-8832

E-mail watanabe.hiroyuki @ nein.ed.jp

新潟県立海洋高等学校

検索